

先人偉業の碑



今から百六十年程前、私たちの祖先は遠大なる理想を掲げ、有明海の干拓による高道新地を造成した。

文化十三年着手、文政三年完工まで実に五ヶ年、毎日十六キロの道を歩いて往復し、血の滲むような作業を続けた。そして百十ヘクタール余の新しい水田ができ、毎年その得米代が村の収入となった。

村ではその金を積立て、明治四十四年、上坂、坂下両小学校と役場を同時に新築し、大正十四年四月、両校を現在地に移転合併した。

更に、昭和十二年三月、二階建て裏校舎を新築、同時に、他村に先がけて講堂も建設した。これらの費用は全部その積立金から支出されたものである。

昭和二十七年、農地法の施行により自作農創設のため、高道新地は国より買収され、昭和三十年四月、町村合併によって村有財産は南関町に引き継がれた。

そして、この春、体育館新築のため、由緒ある講堂も姿を消し、一抹の寂しさを禁じ得ない。ここにおいて私たちは、歴史の流れと祖先の遺徳を永く後世に伝えるため、せめて残った講堂の土台石を集めてこの碑を建てる。願わくば、この碑を仰いで、祖先に対する報恩感謝の念を新たにして欲しいものである。

昭和五十一年春 坂下区長会

いま ねん まえ わたし そせん おお りそう ありあけかい
今から160年ほど前、私たちの祖先は大きな理想をかかげ、有明海の
かんたく たかみちしんち き ひら
干拓による高道新地を切り開いた。

ぶんか ねん ぶんせい ねん かんせい
文化13年(1815年)にはじまり、文政3年(1820年)に完成す
るまで実に5年ものあいだ、まいにち みち ある おうふく ち
毎日16kmの道を歩いて往復し、血のにじむ
さぎょう つづ
ような作業を続けた。そして110ヘクタールあまりのあたらしいすいでん
新しい水田がで
まいとし とくまいだい さかしたむら しゅうにゅう
き、毎年その得米代が坂下村の収入となった。

さかしたむら かね つ た めいじ ねん かみさかしょうがっこう
坂下村ではそのお金を積み立て、明治44年(1911年)に上坂小学校
ばしよ ほんた さかしたしょうがっこう ばしよ だいば がっこう むらやくば どうじ
(場所は八田)と坂下小学校(場所は大場)の二つの学校と村役場を同時
しんちく たいしやう ねん がつ がっこう がっぺい げんざい
に新築し、大正14年(1925年)4月には、2つの学校を合併して現在
の場所に移した。

しょうわ ねん がつ にかい だ うらこうしゃ しんちく どうじ
さらに、昭和12年(1937年)3月、二階建て裏校舎を新築し、同時
た むら さき こうどう けんせつ ひよう ぜんぶ つ た きん
に、他の村に先がけて講堂も建設した。これらの費用は全部その積み立て金
つか
が使われたものである。

しょうわ ねん じぶん こうさく ひと か ひろ たはた
昭和27年(1952年)、自分で耕作せず人に貸している広い田畑につ
てばな ほりりつ たかみちしんち くに か
いては手放さなければならない法律ができたため、高道新地は国から買い
あ しょうわ ねん がつ さかしたむら ざいさん ちょうそんがっぺい
上げられた。昭和30年(1955年)4月には、坂下村の財産は町村合併
なんかんまち
によって南関町にひきつがれた。

はる たいいくかんしんちく せんぞ
そして、この春(昭和51年・1976年)、体育館新築のため先祖のご
くるう た こうどう すがた け いちまつ かん
苦勞によって建てることのできた講堂も姿を消し、一抹のさびしさを感じ
わたし れきし なが そせん
ないではいられない。ここにおいて私たちは、歴史の流れと祖先のすばら
おこな なが のち よ つた のこ こうどう どだい いし あつ
しい行いを永く後の世に伝えるため、せめて残った講堂の土台の石を集め
てこの碑を建てることとした。

ひ あお そせん たい ほうおんかんしゃ ねん あら ねが
この碑を仰いで祖先に対する報恩感謝の念を新たにしてほしいと願うも
のである。

しょうわ ねん はる さかしたくちやうかい
昭和51年(1976年)春 坂下区長会